

交付対象事業の名称	事業概要	K P I				令和2年度の主な取組とK P Iへの影響	今後の方針	事務局評価
		指標	単位	R2目標	R2結果			
「農」あるシルバーは地域を救う！若者と共に農業で大活躍プロジェクト	農業に必要な知識・技術を習得する場としてシルバー人材センターが整備した「農の拠点」で、高齢者でも低負担で耕作でき、高品質で一定の収穫量を維持できるアイメック農法によるミニトマトの栽培を行う。収穫したミニトマトの販売により収益を得る。販路開拓・ブランド化を進め、付加価値を高めることで収益の向上を図るとともに、高齢者のやりがい・生きがいのさらなる醸成につなげる。将来的には年間約10トンの収穫により収入を得ることで、農業事業に関する経費を賄える水準を目指す。また、「農の拠点」を新規・若手就農希望者の研修の場として活用することで、地域の担い手の新たな確保や高齢者と若者の交流を促進し、シルバーによる高齢農家への農作業支援の充実につなげていく。	① 農作物の収穫量	kg	9,600	6,891	<p>【農園事業】</p> <p>年間収穫量は6,891kgとなった。令和元年度は大粒のものや皮が固いものなどがあつたため、アイメック農法開発のメビオール(株)から指導を受けるなど品質重視に努め、品質の良いトマトを栽培することができた。しかしながら、目標収穫量に達成するのは今後も難しい見込み。</p> <p>従事した会員は、栽培、収穫、バック詰め、運搬、販売促進などに係わり目標値には達成しないものの一定の就業機会を確保した。トマト販売額は、目標販売額は設定した年からトマトの市場価格が大きく下がっていることを受けて達成することは困難だが、前年販売額からは、販売先を精査することで前年度比較し約20%売上アップを図れた。</p> <p>【若手就農者への研修、高齢農家農作業支援事業】</p> <p>若手農家への研修は、市内若手農家は概ね終了しており、令和2年度は、新型コロナウイルスもあり他に実施することはできなかった。高齢農家支援として、トマト事業に従事した経験を支援として活かせないかと考えていたが高齢農家が希望する支援としては、肉体労働などが多く今後も実施することは難しい見込み。</p>	<p>【農園事業】</p> <p>トマト栽培については、このトマトの品質に対して評価が高く顧客もついていることから、引き続き品質重視の栽培に努め、その技術が継承できる体制を構築していく。栽培以外の部分(収穫、バック詰め、運搬、販売促進)についてはこの事業の魅力はPRすることで就業機会の創出を行う。</p> <p>トマト販売については、そのまま売だけでは限界があるため、加工や糖度等による差別化を図ることで付加価値を付けて販売することで売り上げ増を目指す。</p> <p>【若手就農者への研修、高齢農家農作業支援事業】</p> <p>若手就農者への研修は希望があれば引き続き実施をしていく。また、子どもやその保護者などにも施設やトマトを譲ってもらう機会を作り魅力のPRを行っていく。</p> <p>高齢農家への支援は、支援ニーズ(肉体労働)が、シルバー人材センターの会員も高齢なため合致しないため今後も高齢農家農作業支援を行うのは難しい。</p>	地方創生に効果があつた
		② 耕作・販売に従事した会員数	人	50	34			
		③ 高齢農家への支援件数	件	7	0			
		④ 農作物の販売額	円	18,840,000	8,500,000			
守れ伝統！はばたけ鶴飼！水辺が活きる地域づくりプロジェクト	伝統漁法を守る若き船頭を育成するため、木曾川観光(株)のベテラン船頭が指導員となり、舟の舵をとる責任者「とも乗り」候補生を育成する。また、若手農業者団体「犬山農芸」が、先輩指導員として、若手見習い船頭をとも乗りの助手「なか乗り」として育成する。市観光協会と連携し、日本の伝統漁法である「木曾川うかい」の魅力が強力にPRし、外国人観光客を積極誘致。将来的には、若手船頭が、増加する外国人観光客へのおもてなし対応力を高め、インバウンド需要の取込みを図る。	① 木曾川うかい乗船者数(人)	人	25,300	3,079	<p>【船頭育成のための委託料】</p> <p>令和元年度末までに3名の友乗りが合格となった。ただし、全体として船頭の人数不足は解消されていないため、令和2年度以降市単独で育成事業を継続することとした。訓練は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響、及び7月を中心とした増水被害により、機会確保が非常に難しい状況であったが、最終的には予定していた訓練回数を行うことができた。</p> <p>今後は、中乗り、友乗りともに訓練を継続して少しでも多くの船頭を育成し鶴飼事業の安定的な運営を図る。</p> <p>委託料計：5,651,250円 ※鶴舟・屋形船出船業務委託料</p> <p>【河川空間をもっと楽しい空間にするための、モデル事業の実施】</p> <p>河畔における夜の賑わいづくりのため、試験的に実施している「宵のいぬやMARCHE(ナイトバザール)」を、令和元年度に続き実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、開催を断念した。</p> <p>【河川空間をもっと楽しい空間にするための、モデル事業の実施】</p> <p>新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながらではあるが、令和3年度は、試験的に実施している「宵のいぬやMARCHE(ナイトバザール)」を開催する予定。今後は、実証事業を経て、民による実施主体がナイトバザール運営の役割を担い、持続可能な夜の賑わい、地域経済の好循環を目指す。</p>	地方創生に効果があつた	
		② 見習い船頭の乗船回数(回)	回	336	450			
		③ 一人前の船頭となり就労している若手船頭の数(人)	人	3	3			
		④ 木曾川うかい事業による木曾川観光(株)の売上額(円)	円	84,720,000	11,261,710			

交付対象事業の名称	事業概要	K P I				令和2年度の主な取組とK P Iへの影響	今後の方針	事務局評価
		指標	単位	R2目標	R2結果			
犬山の子どもは犬山全体で育てる！女性の活躍があるまちへ！事業	①「(仮)子育て家族気軽に集えるステーション」の利用で情報を得た後に、就業等の講座を経て「マルシェ出店」や「カフェでのワークショップ講師」などのプチ起業に繋がった子育てママの人数	人	20	0	【子育て家族が集う場（子育て家族気軽に集えるステーション）の整備事業】 子育て家族が集う場「さんにいれ」の整備は前年度までに完了。子育てについての相談を前年度より継続して実施した。  【子育て&女性活躍の為に情報収集・発信力強化事業】 市内で実施されるイベント等の情報を分かりやすく発信するため、子育て応援ウェブサイトを開設した。	【子育て家族が集う場（子育て家族気軽に集えるステーション）の整備事業】 交付期間終了後も、「さんにいれ」を相談機能を持ったステーションとして運営する。  【子育て&女性活躍の為に情報収集・発信力強化事業】 令和2年度に作成した子育て応援ウェブサイトの運営管理を、NPO法人にこことに委託し、子育て中のママ等のサービス利用者の目線から子育て支援に関する様々な情報を発信。KPI①～④の達成に貢献する予定。	地方創生に非常に効果があった	
	①(仮)子育て家族気軽に集えるステーション整備事業 子育て家族が気軽に集えて、話せて、子どもも遊べる、情報が手軽に取得できて、就業(復職)や起業に繋がる情報や機会が用意され、子育て相談も気軽にできるようなサービスが一元化された場(仮)子育て家族気軽に集えるステーション)を整備する事業  ②情報収集及び発信力強化事業 民間事業者と連携。子育て&自分磨きに関する情報を集約し、様々な手法を用いて情報を発信。子育てママに必要な情報を適切に届ける「情報収集及び発信力強化事業」。加えて、市のシティプロモーション施策として市内外に幅広く発信。  ③犬山市全体で全力で子育てを応援！支援する人も大活躍事業 子育てや女性の活躍を応援する人・団体が目的や目標を共有することで、相乗的な効果が得られるネットワークを構築する。  ④シェアリングサービスを活用した新たな子育て&輝き支援事業 子育て預かりサービス事業者等と連携し、スマートフォンなどのICT等を活用した「シェアリング」を子育て施策に導入することで、子育てに係る負担を軽減。併せて交流会を開催し、子育て家族間の交流の機会を設定する。また、交流会を通じて子育てを支える側の人材も新たに発掘し、子育て支援活動を通じて地域課題を解決する担い手として活躍する場の開拓を応援。  ⑤子育てママが自分を高めて社会で輝くためのきっかけづくり事業	②ステーションでのイベントやミニ講座の実施に対する参加者数  (ステーションで実施予定だったものをオンラインで実施した講座については、オンライン参加者を含む。	人	130	312	【犬山全体で子育てとママの活躍を応援するネットワーク強化】 庁内においては、関係課が月に1回程度集まり、子育て世代向けの教室やイベント等についての情報交換を実施している。しかし、コロナ禍にあったため、予定していた事業については実施を断念、又は実施回数を減らす等の対応をとったため、KPI②への影響は減少した。また、下に記載する「オンラインいぬやま子育てシェア博2020」(シェア博)の開催にあたっては、運営スタッフを市民からも募集するとともに、現在はNPO法人化した『子育てからひろがる・はじめのいっぽ応援チーム「にこっと」』と協力して事業を実施した。このシェア博の申込者254人をKPI④に計上している。		【犬山全体で子育てとママの活躍を応援するネットワーク強化】 交付金事業期間中に設立されたNPO法人にここと連携した事業を模索する。 また、これまで市が実施してきた各種教室やイベントを継続して、子育てとママの活躍を支援するとともに、地域での仲間づくりを促す。
	③シェアリングエコノミーによる子育て支援サービスを利用した人及びママ交流会に参加した人で、のちに子育て支援者(ホスト)になった人の数	人	30	16	【シェアリングサービスで子育て支援の補強事業】 コロナ禍にあったため、昨年度に実施した子育てシェア博「オンラインいぬやま子育てシェア博2020」として開催し、子育て分野でのシェアエコの認知度向上を図った。芸人も起用し、多い時間には約100人の観覧(申込者254人)があり、一定の成功を収めたものと考えられるが、その後の動向については把握できていないため、KPI③への影響は不明となっている。  【子育てママの自分を高めて社会で輝くためのきっかけづくり事業】 コロナ禍に配慮して、オンラインでの開催や3密対策を行った上で対面にて各種講座や教室等を開催した。オンラインでは、犬山で活躍する女性の話を聞く「きっかけ交流カフェ」と広告宣伝スキルを学ぶ「子育てママの宣伝広告スキルアップオンライン講座」を合計4回、「にこっと」により、漢方養生茶とHSCの子育てお話し会、呼吸のお話+おやすみヨガなどの講座を計48回実施。対面では、男女共同参画を考えるイベントやママ友in犬山、創業セミナーを開催。参加者の気づきや学び、ママ同士の交流、女性の活躍のきっかけづくりを促した。当初予定していた(通常の)講座は新型コロナウイルス感染症の影響により開催回数を減らしたが、オンライン講座を多く実施したことにより、KPI②の達成に大きく貢献した。しかし、オンラインでは就業等の講座をしっかりと作りこむことができず、KPI①にあるプチ起業に繋げるまでは至らなかった。	【シェアリングサービスで子育て支援の補強事業】 子育て支援のための一つのツールとして、今後もシェアリングサービスの普及に取り組む。新たな普及方法を検討するとともに、新しいプラットフォームの活用を研究する。		
	④「(仮)犬山全体で子育てとママの活躍を応援するネットワーク」が開催する「子育て&誰もが活躍ミーティング」に参加した人の数	人	60	254		【子育てママの自分を高めて社会で輝くためのきっかけづくり事業】 交付金事業は終了するが、引き続き社会進出、復帰したい子育てママの支援、男女共同参画事業、ママ友in犬山、創業セミナー等を開催し、女性の社会進出、男女共同参画への理解促進を図る。		

交付対象事業の名称	事業概要	K P I				令和2年度の主な取組とK P Iへの影響	今後の方針	事務局評価
		指標	単位	R2目標	R2結果			
観光を産業の柱へ!!!みんなが潤うまちづくり事業	<p>本市が有する多くの課題に対して、「勤と経験」ではなく、数値(データ)をもとに方針と戦略を整え、解決にあたる。「シェアリング」の仕組みを用いて参入のハードルを下げ、事業者を始めとして若者から高齢者まで誰もが気軽に観光産業に参画できる場と機会を作り、新たな特産品開発など、ビジネスの創出も促すことによって、将来においては観光を大きな産業に成長させる。具体的には以下の事業を実施する。</p> <p>①「多くの観光資源を持つ」ことを活かして「稼げるまち」になるために必要なデータの収集・分析及び戦略の策定</p> <p>②「(仮)地域で稼ぐ研究会」の開催とお試し事業の実践</p> <p>③シェアリングエコノミーを活用して市域全体で「稼ぐまち」を目指す。</p> <p>④工芸品・特産品のバージョンアップを図る</p> <p>⑤学生が活躍できるフィールドづくり</p>	① 市の支援を受けて、新たにインターネットの体験予約サイトに登録された体験型観光メニューの利用者数(延べ人数)	人	60	114	<p>【観光の基幹産業化に向けた調査・分析事業】</p> <p>令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、予定していた観光戦略は次年度策定となった。令和2年度はコロナの影響、コロナ禍からの回復、犬山らしさ等について検証、研究を行った。今後の戦略策定に役立てる予定。</p> <p>【「(仮)地域で稼ぐ研究会」の開催】</p> <p>観光まちづくり会議(地域で稼ぐ研究会)はコロナ禍で開催が出来なかった。事業者、住民の中でのキーパーソンとの意見交換を行い、情報共有などに心がけた。(KPI②③)</p> <p>【シェアリングエコノミーの普及・啓発及び活用】</p> <p>・体験型観光メニュー 体験型観光メニューの造成に努めた。コロナ禍では、オンラインでのメニュー展開も研究・検討した。(KPI①) ・駐車場シェア YOUTUBEとZOOMを活用したオンラインいぬやま子育てシェア博覧会において、駐車場シェアの説明会を実施したが、新たな駐車場の登録にはつながらなかった。また、新型コロナウイルス感染症の影響による観光客の減少により、駐車場の利用額も減少した。(KPI④)</p> <p>【学生によるまちのにぎわい創出】</p> <p>金城学院大学学生によるまちの賑わいに資する事業やコンテンツ案の提供を受けた。閑散期である冬期に「サクラサクキャンペーン」など、具体的な事業展開が進んだ。 名古屋経済大学による観光資源情報の充実については、新型コロナウイルス感染症の状況を勘案し、断念した。</p> <p>【有識者会議による検討】</p> <p>観光戦略策定は次年度となったが、コロナの影響等を検討するため観光戦略会議の専門部会を3回開催し、有識者による討議と検討が進んだ。</p>	<p>【観光の基幹産業化に向けた調査・分析事業】</p> <p>令和3年度に犬山市観光戦略を策定予定であり、観光が産業として成長できるよう、必要な施策事業(リーディングプロジェクト)を設定する予定。また、観光振興が市民の豊かさに寄与することを数値として定点観測するK P Iも検討の上設定する。</p> <p>【「(仮)地域で稼ぐ研究会」の開催】</p> <p>コロナ禍であり、先行きは不透明であるが、少人数での開催など、実施方法を工夫して開催する予定。関係者の対話の場と機会の設定が観光を切り口としたまちづくりに必要であり、何とか実施したいと考えている。</p> <p>【シェアリングエコノミーの普及・啓発及び活用】</p> <p>・体験型観光メニュー コロナ禍においても、オンライン、リアルともにシェアを活かした体験型観光メニューの造成を継続実施する。 ・駐車場シェア オンラインでの展開には限界を感じたため、令和3年度は新型コロナウイルス感染症に十分に配慮して、これまでとは異なるターゲットに駐車場シェアの説明会を開催し、新規登録につなげる。</p> <p>【学生によるまちのにぎわい創出】</p> <p>金城学院大学学生との連携をさらに進め、観光の平準化、夜の賑わい創出など課題解決に資する取組みを検討・実施する。 今後は、新型コロナウイルス感染症の状況を勘案しながら、名古屋経済大学と協議のうえ、事業実施を検討する。</p> <p>【有識者会議による検討】</p> <p>観光戦略会議、専門部会を開催予定であり、有識者の意見を踏まえ、犬山市観光戦略を令和3年度末までに完成する予定。</p>	地方創生に効果があった
		② (仮)地域で稼ぐ研究会への参加者数(延べ人数)	人	200	0	<p>【大山市協働プラザ運営事業】</p> <p>大山市協働プラザを設置し、まちづくり活動の拠点として運用を開始した。情報発信の基盤としてWEBサイトの構築、季刊誌の発行、相談業務を行うと共に、情報収集の仕組みとなる地域資源バンク、対話から事業を生み出すフューチャーセッション@犬山を開始。 この相談、情報収集、対話、企画という一連の流れから、KPI①として地域資源を掛け合わせるプロモーション企画を一件生み出すことができ、この取組を継続的に実施する団体の設立へとつなげることができた。</p> <p>【多分野の官民協働人材育成事業】</p> <p>新たな社会的活動にチャレンジするための助成事業を実施し、計7事業が実施された。こうした事業の実施により人材が育成され、KPI①の事業の実施やKPI②の登録件数につながっていく。</p>		
		③ (仮)地域で稼ぐ研究会で実施されたお試し事業の数	件	3	0			
		④ シェアリングエコノミーを活用した駐車場の利用額	円	372,100	109,390			
大山市協働プラザを拠点にした人材育成で地域の資源の活用、課題解決事業	<p>本事業は、総合的なまちづくりのエンジンとなる拠点「大山市協働プラザ」を設置、運用するものである。H29から取り組んできた前身事業の土台を活かし、情報を収集・発信し、対話の場によって新たなアイデアを生み出し、地域の課題解決につながる事業が企画・実施されていく一連の仕組みを構築する。多様な人材や団体が出入りし、活動の拠点や情報交換が可能となる空間を提供すると共に、地域資源の情報をより広範囲に、アウトリーチを基本として収集し続け、資源とプレイヤーをつなぐ、また実践された事例のノウハウを提供するための情報発信や相談機能を有する拠点となる。</p> <p>また、全国の市町村にも中間支援機能を担う施設は設置されているが、連携の機会が限られているため、他市町との中間支援機関とも学習交流会として情報交換を行いながら、中間支援人材を育成していく。</p> <p>加えて、現在山積している地域課題の分野は多岐にわたり、各地域で活躍する人材についても育成が必要となっている。そのため、他の人材育成メニューについても実施していき、多面的に事業を推進していく。</p>	① 大山市協働プラザの一連の仕組みから生み出される事業件数	件	1	1			
		② 地域資源バンクの登録件数	件	60	16			
		③ 大山市協働プラザの相談対応件数	件	30	63			
		④ 大山市協働プラザの自主事業の実施に伴う収入額	円	130,000	0			